

はじめに

本委員会では、昨年度 三大スポーツイベント(ラグビーW杯、東京オリンピック・パラリンピック、関西ワールドマスターズゲームズ=以下、関西WMGと略)が開催される3年間、及び開催後を見据えた長期的な観点で課題の洗い出しと提言を行った。今年度はスポーツイベントのレガシーに加え、関西の豊富な文化も併せて世界に向けて発信し、インバウンドも増やすべきという認識の下、スポーツ部会と文化部会を設けて議論や視察を行ってきた。

1.関西が目指すべき「世界に冠たる生涯スポーツ&文化エリア=KANSAI」

●背景

- ・前回(1964年)の東京オリンピック以降の50年間、日本では高度経済成長とその終焉、バブル崩壊と失われた20年を経て、財政赤字の拡大、少子高齢化、格差社会、東京一極集中と地方の疲弊といった問題が深刻化している。この状況を鑑みると、次のオリンピックを契機に、老いても元気で豊かな国として、高齢化が進む先進国の新たな成熟モデルを世界に示すチャンスである。
- ・そもそも経済活性化の大きな手段である「観光」が産業として成立し栄える条件は、①気候、②自然、③文化、④食事で、関西はその条件を十二分に満たしており、ここにスポーツが加われば磐石である。

●目指すべき姿

- ・関西は、その四つの条件の核となる文化と、老いても元気で豊かに暮らせる心身を維持する為のスポーツを観光資源の両輪として興隆・定着させ、世界に発信すべきである。

2.2019～21年に向けた国・自治体等の取り組みの現状と課題

①ラグビーW杯

- ・東大阪市の花園ラグビー場と神戸市の御崎公園球技場が会場となるが、必ずしも日本戦の開催が期待できないことから、イングランド大会で沸騰したラグビー人気を維持しつつ、いかに関西全体で盛り上げて集客に繋げるか、プロモーションやホスピタリティプログラムなど官民共同の取り組みが課題となる。
- ・会期が1ヶ月半と長いので、国内外の観客が滞在・周遊して、歴史・文化などの多様な関西の魅力に触れられる絶好の機会になる。

②東京オリンピック・パラリンピック

- ・一部の自治体ではキャンプ誘致に乗り出しているが(滋賀県など)、今後リオ五輪に向けて本格化する招致活動に、首都圏へのアクセスや施設環境に恵まれた関西の各地が、意欲的に誘致を検討すべきである。
- ・一部の競技種目の関西開催も検討されているが(吹田市におけるサッカー)、会場条件にまつわる厳しい制約など(周辺を含めた広告看板・サインの撤去等)、課題も少なくない。

③関西WMG

- ・ラグビーW杯や東京オリンピック・パラリンピックは、その活用や経済効果の取り込みがテーマとなるが、関西WMGはまさに関西が「主役」となる大会であり、2021年以降を考えると、重要な意味を持つ。
- ・関西広域連合を中心に招致が進み、現在、組織委員会や事務局も整備され、2016年10月を目途に競技種目と開催地が決定される。
- ・現下の課題は、やはり全国区での知名度、認知度の向上にある。また、この大会を生涯スポーツ振興の契機とするべく、東京オリンピック・パラリンピック等とは異なる事業の性格や収支構造も踏まえつつ、レガシーを残すことが重要である。

- ①国(文化庁):文化芸術立国の実現のために、2016年秋から全国津々浦々で文化プログラム=「文化カプロジェクト(仮称)」を推進するとしている。
- ②関西においては、文化庁の「文化カプロジェクト」と連携した「関西元気文化圏推進協議会」「はなやか関西・文化戦略会議」や各自治体独自の取り組みが行われている。また大阪では「大阪アーツカウンシル」「アーツサポート関西」等がそれぞれの目標・設立趣旨に沿った活動を展開している。
- ③資金面では、自治体の芸術・文化振興関連の予算、民間の寄付金額自体が十分とは言えず、1)予算・寄付規模拡大方策の検討、2)各自治体、各組織・団体の役割分担の明確化、3)それぞれの持ち味を活かした助成・支援活動の展開の統括機能を発揮できる仕組みの検討が必要。
- ④文化レガシー構築と、それを担う人材の育成、ひいては産業育成に繋げていくために、戦略的な観点から「関西全体としての芸術・文化振興ビジョン・シナリオ」の共有、推進するアクションプランが必要である。
- ⑤将来、文化首都を目指すためには2019・20・21年のビッグイベントを活かすことが最大でかつ最終のチャンスであり、関係各所がこの目標に向かって様々な障害を共に乗り越えようという取り組みが求められる。

共通

- 本委員会が検討するスコープには入れなかったが、スポーツ・文化イベントの興隆、ひいては関西圏への観光客を増やすに当たっては、交通・宿泊・通信・標識・案内事情など改善の余地が大きいことは言うまでもない。

3.2012年「ロンドン五輪」文化プログラムに学ぶべきもの

- ・最大のレガシーは、ロンドン五輪をトリガーとして最貧困地域の再開発が20～25年早まったこと。メイン会場として使用し、閉幕後もスポーツ・文化・住戸・ホテル・商業施設の集積地域として今なお開発中である。
- ・文化プログラムの総予算(4年間)は1億2,662万ポンドであり、28%が宝くじ基金から拠出されたことが特徴的。また、イギリス全土を地域ごとに管轄して文化プログラムを推進した地域アーツカウンシルとプログラムディレクターの果たした役割は大きい。
- ・文化プログラムを成功裡に導いた3代目ディレクターが就任したのは2010年と遅かった。また、一般市民はオリンピックの文化プログラムと知らずに個々のイベントに参加した人が大半で、国内外でPRが徹底できていた訳ではない。

4.提言

【 】は想定している提言の実行主体者

●三大スポーツイベントをオール関西で盛り上げ、生涯スポーツの聖地「KANSAI」をつくろう

①「スポーツ」をKANSAI観光の新たな軸に据えよう

【関西国際観光推進本部、同友会】広域DMOとして期待も高まる関西国際観光推進本部に、スポーツツーリズムの専門セクター(機能)を設置し、振興施策の検討を開始。「スポーツコミッション関西」との連携。

②「2019・20・21年」をオール関西で盛り上げよう

1)ラグビーW杯

【各自治体、日本ラグビー協会、関西ラグビー協会、各県ラグビー協会、各企業】

日本代表マッチの関西誘致等による気運の維持・向上。パブリックビューイングやインフォメーションセンターなどの観戦サービスの充実、各種プロモーション対策やホスピタリティプログラムの展開。姉妹都市関係などを活用した市民動員。トップリーグ所属チームによる各種啓発活動(競技人口やファン層の拡大など)の実施。

2)東京オリンピック・パラリンピック

【自治体他】地の利(競技施設の集積や移動交通手段の充実等)を活かしたキャンプ誘致。宿泊・観光の受入れ。

3)関西WMG

【広域連合、WMG組織委員会】周知・浸透、国家的事業(文科大臣認定大会)位置付け獲得のための運動展開。

③生涯スポーツの聖地KANSAIづくりを進めよう

【関経連、同友会】新たな生涯スポーツ(サイクリング、山歩き他)の聖地づくりとニュースポーツの振興。

【企業】ボランティア休暇に就いたスポーツ休暇制度の導入検討や年休を取りやすい職場環境づくり。

【広域連合、WMG組織委員会】広域開催に対応したエントリーや記録、移動、宿泊などを一元管理する運営サイトを構築し、閉幕後も、生涯スポーツ振興の広域ネットワークインフラとして活用。大会レガシーづくり。

●2021年以降の「文化レガシー」構築に向け、文化の諸活動を「点から線・面」に「関西は1つ」で取り組もう

①体制づくり・・・関西の文化活動の統括機能拡充を狙い「関西文化支援協会(仮称)」の設立を目指す。

【関西広域連合・自治体・関係機関】「関西・大阪21世紀協会」あるいは「アーツサポート関西」等を母体にし、関西広域連合、各自治体、関西国際観光推進本部、大阪アーツカウンシル、および各種経済団体関係各位の協力を得て、財源確保施策を検討し、文化芸術支援機能の拡充・強化を図る。

②ひとつづくり

【関西広域連合・自治体・関係機関】雇用や産業の創造に向け、未来遺産継承、未来人材育成と、専任専門職員の常勤雇用を検討。

③企業の積極参加

【企業】関西企業も自ら動き、文化活性化に寄与するため、所蔵の美術品や企業のもつ物的資産等を活用した展示会等の実施可能性を検討する。(関西経済同友会「芸術・文化委員会」と連携し、実現の可能性を検討)

④その他

【大阪府市】ユネスコが2004年に創設したクリエイティブ・シティズ・ネットワーク制度の食文化都市への申請。

【関西WMG組織委員会、食博実行委員会】関西WMGと食博覧会の連動によるスポーツ・文化体験機会の拡大検討。【学校、家庭】児童・学生の頃から文化芸術に触れる教育機会づくり、大人の文化芸術理解度の涵養。

●恒常的な財源確保と、魅力ある情報発信で「世界に冠たる生涯スポーツ&文化エリア=KANSAI」の実現を

①資金づくり

【関西広域連合、自治体、関係機関】スポーツツーリズム振興の財源には多様な財源確保(自治体所有施設へのネーミングライツ付与やホテル税、協力金の活用など)が必要。また「文化オリンピック関連予算の積極的獲得」に向けた施策や、個人・企業が寄付できる文化芸術に関する基金等の創設を検討(IR・宝くじ等にも視野を拡大)。

②情報発信

【関西国際観光推進本部】関西観光ポータルサイトi-KANSAI(仮称)でストーリー性あるコンテンツの発信。

【メディア】ラグビーW杯・関西WMGはもとより、文化プログラムのPRにメディアの力をお借りする。

おわりに

ロンドン東地区の再開発も30～40年かける計画になっている。関西も多くの歴史遺産があるにも拘らず街の構造が整っているとは言えない。この機会に長期の街造り戦略をたてるべきである。誰もが行ってみたい地域、世界に冠たる生涯スポーツ&文化エリア=KANSAI に飛躍すべく、大きな戦略合意の下、関係者一同が汗を流したい。